令和３年度　No.11

駒岡小学校だより　３月号

あなたのヒーローは誰ですか？

校長　中山　正之

寒かった２月が終わりました。ここまで何度か降雪が心配されましたが、年頭に少し積もったものの、その後ほとんど降ることはありませんでした。このまま季節が春になっていってほしいものです。またコロナの心配も相変わらず続いていますが、こちらも春を迎える頃には収束に向かってほしいと心から願っています。

さて、５年生の外国語に、“Who is your hero?”という単元があります。「自分のヒーローを考え、その人を紹介しよう」という内容の学習です。教科書では例として、「ドラえもん」ののび太君やパラアスリートの国枝慎吾選手など、だれもが知っているキャラクターや人物が取り上げられています。また一方で、「私のお兄さん」や「近くのお花屋さん」など自分が親しみを持ち、お手本としたい人も紹介の対象として取り上げられています。実際に学習をした子ども達がどんな人を紹介したいのか尋ねてみたところ 、「ネイマール選手」「大坂なおみ選手」「松山英樹選手」「エジソン」「両親」「自分のお兄さん」「いとこのお姉さん」などを挙げてくれました。なかなかバラエティに富んでいて興味深く思います。また、家族など身近な人を自分のヒーローとして尊敬している子が多いことが分かり、とても微笑ましい気持ちになりました。

ところで、最近の私達のヒーローといえば北京オリンピックで活躍した選手達ではないでしょうか。彼らは素晴らしいパフォーマンスを披露し、コロナで苦しむ私達を連日元気づけてくれました。活躍するその姿を見て、憧れを抱く子ども達も少なくないと思います。そんなこれからのヒーローとなる選手達ですが、その背景や足跡を知ると、彼らにもまた自身のヒーローがいることが分かります。スキージャンプの小林陵侑選手にとっては、所属チームの監督でレジェンドと呼ばれる葛西紀明選手が、そしてフィギュアスケートの羽生結弦選手にとってはかつての金メダリストであるエフゲニー・プルシェンコ選手が、それぞれ憧れであり目標であったそうです。さらに、男子フィギュアの銀メダリストである鍵山優真選手は、同じオリンピック代表の宇野昌磨選手や羽生選手を目標としているそうです。余談になりますが、鍵山選手は横浜市の生まれで、現在市内の高校に在学しているそうです。１８歳と若く親しみを感じさせる人柄もあり、これからも応援していきたいアスリートです。

１０代や２０代である選手達が目標とするヒーローを見つけたのは、おそらく子どもの頃だと思います。そして夢中になって競技に打ち込み、「あの選手のようになりたい」という目標を持ち、努力を重ねてきた結果が実を結んでいるのです。今回のオリンピックを観ているとそうした憧れに対する尊敬の念はもとより、さらにそれを越えていこうとする強い意志も選手達から感じられました。ヒーローの存在は、結果として人を成長させていくことにつながると改めて学びました。子ども達一人ひとりにヒーローがいることは、やはり大切なのだと思います。

最後になりますが、この一年もまた制限の多い学校生活となってしまいました。ただ、その中でも子ども達は元気に毎日を過ごしてくれました。保護者の皆様には学校に来ていただく機会が少なく、ご心配をおかけしましたが、例年同様に多くのご協力を賜りました。心から感謝いたします。一年間ありがとうございました。